

研究機関名：下関市立市民病院

研究課題名：

高齢心不全患者における入院早期のエネルギー摂取量と生命予後の関連性および媒介因子の検討

研究期間：2026 年 5 月 1 日～2026 年 10 月 25 日

対象材料：

☐病理材料（対象臓器名： ）

☐生検材料（対象臓器名： ）

☐血液材料

☐遊離細胞

☒その他（ 診療録 ）

上記材料の採取期間：2023 年 3 月～ 2025 年 5 月

意義：

心不全患者では、高齢化に伴い低栄養やサルコペニアを合併する症例が増加しており、適切な栄養管理は薬物療法や運動療法と並ぶ重要な治療戦略とされている。近年、心不全患者において退院前 3 日間のエネルギー摂取量の低下は生命予後不良と関連する独立した因子であることが報告されており（Katano ら、2021）、十分なエネルギー摂取を確保することの重要性が示されている。しかし、入院中におけるより早期のエネルギー摂取量は、患者の重症度や急性期の栄養状態を反映する指標であり、早期介入の観点からもその臨床的意義を明らかにすることが重要である。また、エネルギー摂取量は身体機能、栄養状態、嚥下機能と相互に関連することが想定されるが、入院早期のエネルギー摂取量が生命予後へ影響する課程において、これらの因子がどのような役割を果たしているかは十分に明らかとなっていない。このメカニズムを解明することは、単にエネルギー摂取量を確保するだけでなく、予後改善につながる効果的な栄養療法やリハビリテーション介入を構築するうえで重要な知見となる可能性がある。

目的：

高齢心不全患者における入院早期のエネルギー摂取量と生命予後の関連性および媒介因子を検討すること。

方法：

当院の患者データベースおよび電子カルテより後方視的に通常診療の範囲内で得られる患者基本情報や医学的情報、治療経過、リハビリテーション経過、退院時の身体機能評価、退院時の内服薬、予後イベントの有無（全死因死亡）等を診療録より収集する。

個人情報の取り扱い：

患者様の個人情報は、個人を特定できる情報とは切り離したうえで使用する。また、研究成果を理学療法関連学会で発表するが、患者様個人を特定できる個人情報は含まない。

問い合わせ・苦情等の窓口：

〒750-8520

山口県下関市向洋町一丁目13番1号

下関市立市民病院 リハビリテーション部 月城 一志

TEL 083-231-4111 FAX 083-224-3838